

1 学年〇組 国語科学習指導案

令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時
1 年〇組 〇〇名
指導者 〇〇 〇〇

- 1 単元名 作品に込められた作者の思いを読み取り、考えたことを伝え合おう。

教材名 「大人になれなかった弟たちに……」 米倉 斉加年 (「国語1」光村図書)

2 単元設定の理由

(1) 生徒について

文学的文章の学習においては、これまでに「場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて描写をもとに捉えること」について、感想を交流する学習を行った。学習を通して、行動描写や情景描写などに注意しながら読み進めることはできるものの、自身の経験等と結び付けて考えることは苦手であり、作品に対する読みの深まりも十分とは言えない。

(2) 単元構成について

本単元では、物語を読んで考えたことを伝え合う言語活動を通して、「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを確かなものにする力」を育成する。

まず、「作品に込められた作者の思いについて自分の考えをもつ」というゴールを示し、学習の見通しを持たせる。そして、生徒に考えをもたせるために必要となる文章の内容や構造を捉える学習を行う。教材文「大人になれなかった弟たちに……」は戦争という厳しい状況下における家族の姿が描かれている。物語に表れる兄の弟を思う気持ちや母の必死に子を守ろうとする愛情は不変である。生徒は自分と年齢の近い「僕」の思いに寄り添い共感しながら内容を理解し、それをもとに自分の考えをもつことができると考える。さらに、各自の考えを伝え合う活動で自分とは異なる他者の考えに触れさせ、改めて自分の考えの形成を振り返らせることで、各自が自分の考えをより確かなものにできるようにする。

(3) 指導について

指導に当たっては、「作品に込められた作者の思いを読み取り、考えたことを伝え合おう」という単元のめあてについて、生徒が具体的に考えやすいよう作者インタビューを活用する。作者が本作品を書く際に感じた「何か言っておかねばならないことがあるような気がしていました。」という言葉にある「何か」について作品を読むことを通して考えさせるとともに、自分の考えをまとめさせる。

また、各自がまとめた考えを伝え合う際には、他者の考えと自分の考えを比較して聞くことができるようワークシートを工夫する。

さらに、自分のまとめた考えを再度振り返らせ、自分の考えを確かなものにするために、作者が中学生に宛てて書いた手紙を紹介し、これまでの学習をじっくり振り返らせるようにしたい。

3 単元の目標

- ・ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現技法について理解することができるようにする。
[知識及び技能] ((1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 オ)
- ・ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるようにする。
[思考力、判断力、表現力等] (C 読むこと イ)
- ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするようにする。
[思考力、判断力、表現力等] (C 読むこと オ)
- ・ 言葉がもつ価値に気付くとともに、我が国の言語文化を大切にして思いや考えを伝え合おうとするようにする。
[学びに向かう力、人間性等]

4 本単元における言語活動

「小説を読み、考えたことを伝え合う活動」を位置付けた。

(関連 [思考力、判断力、表現力等] C(2)イ)

5 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| <p>・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現技法を理解している。</p> <p>(1)オ</p> | <p>①「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。</p> <p>(C(1)イ)</p> <p>②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行っている。</p> <p>(C(1)オ)</p> | <p>・進んで登場人物の心情変化等を捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。</p> |

6 指導と評価の計画（全5時間）

| 時 | 主な学習活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
|---------------|--|---|--|
| 一次 (1) | ○学習の見通しをもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作者インタビューを読み、作者の言葉にある「何か」について、作品を通して考えることを確認する。 ・「大人になれなかった弟たちに…」の朗読を聞き、話の展開や内容の大体をつかむ。 | |
| 二次 (2)~(3) | ○描写等に注意しながら作品を読み、「僕」の心情を捉えてワークシートにまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情をまとめる際に重要となる時代背景や作品中の「僕」の生活の変化について整理させる。 ・「僕」の心情が分かる部分に線を引かせ、そこから分かる心情や人物像をワークシートに記入させる。 ・線を引いた部分のうち、文末の特徴や表現技法について取り上げ、その効果についても考えさせる。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現①〕 ワークシート 行動や情景の描写などに注意しながら読み、「僕」の心情を捉えているか確認。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>〔知識・技能①〕 ワークシート 文章中の表現技法や特徴的な文末を取り上げ、その役割やそこに込められた思いを捉えているか確認。</p> </div> |
| 三次 (4)~(5) | <p>○ワークシートにまとめたことを踏まえ、作者の言葉にある「何か」について考えをまとめる。</p> <p>○各自で考えた「何か」を伝え合い、自分の考えを確かなものにする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・作者にとって一番恥ずかしくて言えなかったことである「ミルクを盗み飲みした」事実を作品に書いた意図や題名の持つ意味について、グループで意見交流する。 ・「何か」についての自分の考えをノートにまとめさせる。その際、自分の体験と重ね合わせたり「もし自分なら…」と想像したりすることで、伝え合う際に聞き手に分かりやすい表現で書くようにさせる。 ・グループで交流する際には、自分の考えと比較しながら聞かせるともに、各自の発表後、必要に応じて質問タイムを取る。 ・各自の発表終了後、作者の手紙を紹介する。 ・交流等を通して自分の考えがより確かになった部分や広がった部分に線を引かせ、付箋に理由や考えの補足を書いて貼り付けさせる。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現②〕 ノート 「何か」について、ワークシートにまとめた内容をもとに考えをまとめているか確認。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>〔主体的に学習に取り組む態度①〕 観察・ノート 自分が考えた「何か」を伝えたり、他者の考えと比較しながら聞き、気が付いたことをメモしたりしようとしているか確認。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現②〕 付箋紙 交流等で考えが確かになったことや広がったことを付箋紙に書いているか確認。</p> </div> |

7 本時案 (4/5)

(1) 本時のねらい

ワークシートの内容をもとに、作者インタビューで語られた「何か」について考えさせるとともに、考えたことを自分のことばでまとめることができるようにする。

(2) 本時の評価規準

文章中の描写やそこに表れた「僕」の心情を根拠として、作者インタビューで語られた「何か」について考え、自分のことばでまとめている。

(3) 展開

| 学習活動 | 時間 | 教師の指導・支援 | 評価規準・評価方法 |
|-----------------------------------|----|---|---|
| 1 本時のめあてを確認する。 | 2 | ○本時の流れとめあてを確認させる。 | |
| 作者が伝えたかった「何か」について考え、思いを代弁しよう。 | | | |
| | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・第1時に読んだ作者インタビューの内容について確認する。 ・作者が伝えたかった「何か」についてグループ内でフリートークを行う。 | |
| 2 作者が伝えたかった「何か」について考え、自分の言葉でまとめる。 | 33 | ○作者が伝えたかった「何か」について考える。 ・作者インタビューの「僕の中では『ミルクを飲み干した』という、いちばん恥ずかしくて言えなかったことを書かなければいけなかった」という言葉に着目させる。 ・作者インタビューと作品から読み取ったことをつないで考えさせるため、自分の考えの基となるワークシートの箇所にマーカーを引かせる。 ・自分なら何をつたえたいと思うかについても想像させ、「何か」について考えた内容やその根拠をノートに整理させる。 ※自分の考えがなかなか持てない生徒には、フリートークでの他者の考えを参考にさせる。 ○ノートに整理した内容をもとに、考えたことを代弁としてまとめる。 ・「この作品を通して筆者が伝えたかったのは・・・」に続くように発表原稿を書く。 ・伝え合う際に、聞き手に分かりやすい表現で書くようにする。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>〔主体的に学習に取り組む態度①〕 <u>観察・ノート</u> ここでは、前時までに学習した内容をもとに「何か」について考え、自分の言葉でまとめようとしているか確認する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現②〕 <u>ノート</u> ここでは、前時までに学習した内容を根拠として「何か」について考え、自分の言葉でまとめているか確認する。</p> </div> |
| 3 本時の振り返りと次時の確認をする。 | 5 | ○本時で学んだことを振り返らせ、次時の学習を確認させる。 | |